

2020年9月9日

## 経済レポート

## 欧州景気概況(2020年9月)

調査部 副主任研究員 土田 陽介

## 【目次】

## I. 景気概況

【ユーロ圏】 景気は緩慢ながらも回復している	p.1
【英国】 景気は緩慢ながらも回復している	p.3
【ロシア】 景気は緩慢ながらも回復している	p.5

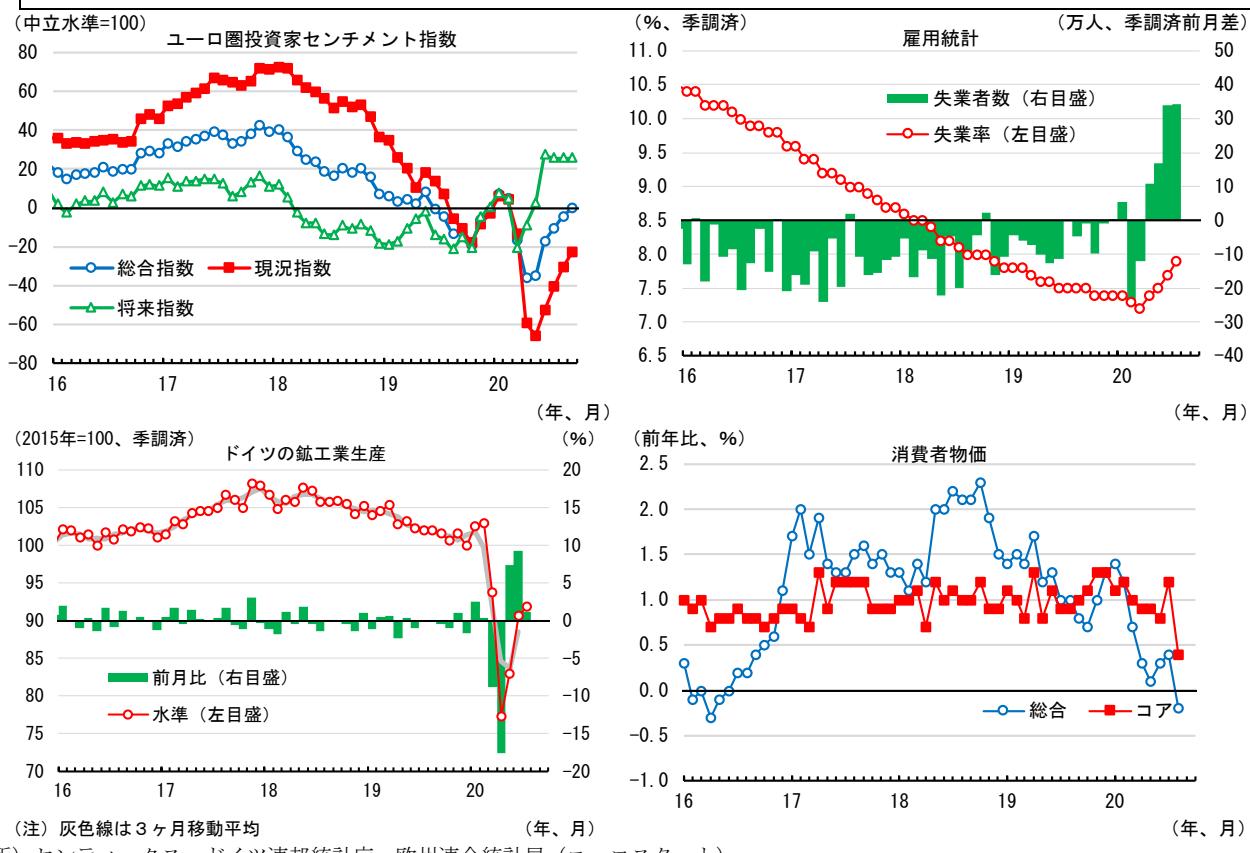
## II. 今月のトピック

コロナショックで不振を極めるツーリズムセクター	p.7
-------------------------	-----

## I. 景気概況

### 【ユーロ圏】～景気は緩慢ながらも回復している

- ユーロ圏景気は緩慢ながらも回復している。ユーロ圏の4～6月期の実質GDP（確定値）は前期比-11.8%と歴史的な減少を記録した。内需・外需ともに歴史的な悪化を記録した。月次の景況感指数は4月を底に8月まで上昇しており、景気は緩慢ながらも回復している模様である。投資家の景況感を示すユーロ圏投資家センチメント指数は9月も上昇したが、6月以降は将来指数が頭打ちとなっている。
- 企業部門では、7月のドイツ鉱工業生産が前月比+1.2%と回復基調を維持しているものの、増勢は大きく鈍化した。同月のドイツ製造業受注も同様に増勢の鈍化が顕著であり、急減後の反発力は徐々に弱まっている。ユーロ圏の企業の景況感は製造業とサービス業で改善が続いているが、建設業は改善が足踏みしている。
- 家計部門では、7月のユーロ圏小売数量が前月比-1.3%と減少に転じ、これまでの回復が一服した。都市封鎖（ロックダウン）に伴い生じたペントアップ需要が落ち着いた結果と考えられる。個人消費を取り巻く環境を見ると、7月の失業率は7.9%と上昇が続き、また失業者数も前月差34.4万人増と雇用情勢の悪化が続いている。
- 他方で、8月の消費者物価が前年比0.2%低下と16年以来となる前年割れに転じた。コア物価も同0.4%上昇と前月（同1.2%上昇）から伸びが下振れしており、需要の弱さがうかがえる。こうした状況の下で、欧州中央銀行（ECB）が近い将来、追加緩和に踏み込むという観測が強まっている。



## ○ユーロ圏の主要経済指標

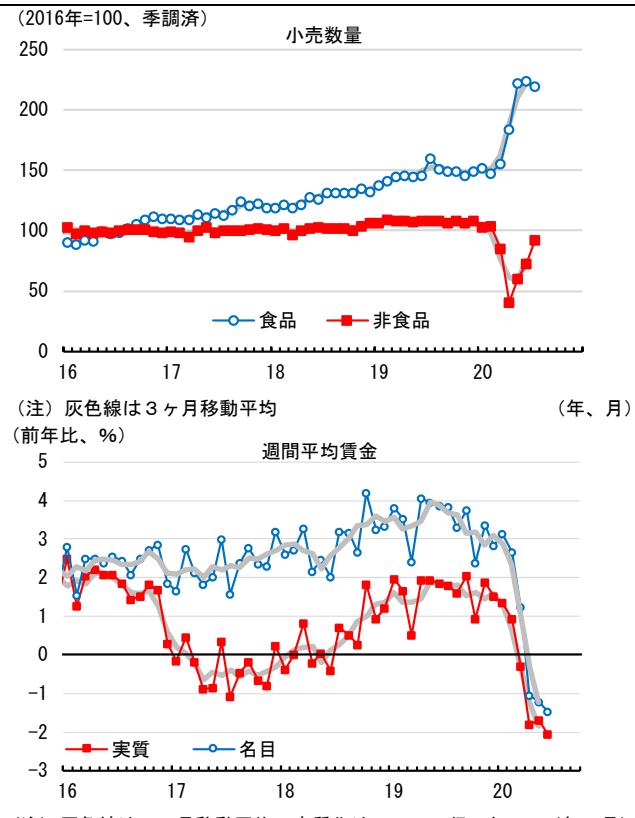
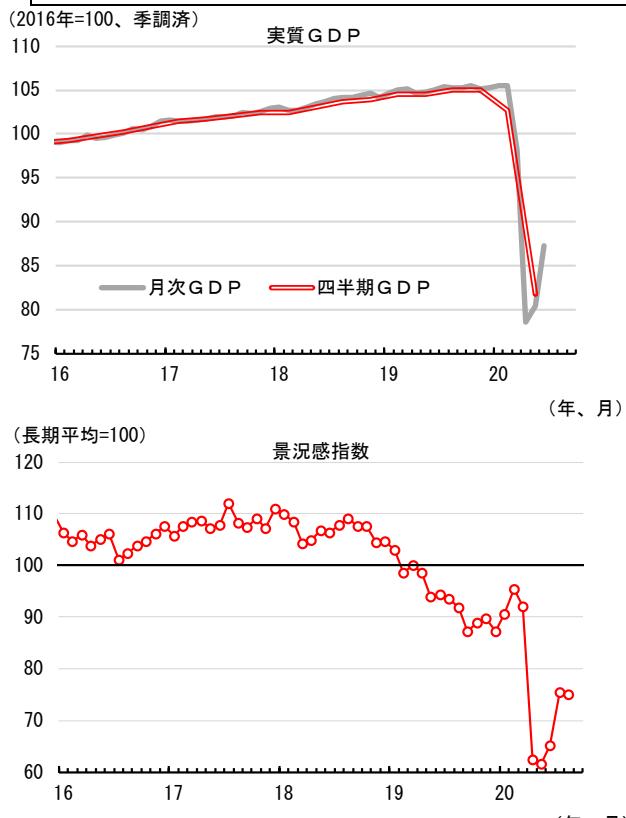
		2017	2018	2019	19/IV	20/I	20/II	20/IV	20/5	20/6	20/7	20/8
全体	実質GDP成長率（前期比、%）*	2.5	1.9	1.2	0.1	-3.7	-11.8	-	-	-	-	-
	個人消費（寄与度、%ポイント）	0.9	0.8	0.7	0.1	-2.4	-6.6	-	-	-	-	-
	総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.9	0.6	0.8	1.2	-1.2	-3.8	-	-	-	-	-
	景況感指数（長期平均=100）	110.4	111.5	103.1	100.6	100.0	69.4	64.9	67.5	75.8	82.4	87.7
	ドイツ	110.6	111.8	102.2	98.6	98.3	76.4	72.1	75.3	81.9	88.4	94.3
	フランス	106.6	106.0	101.9	101.9	102.7	71.0	67.9	67.7	77.5	82.2	91.5
	イタリア	107.1	107.6	100.7	100.3	95.4	-	-	63.0	71.2	77.9	80.6
	スペイン	108.4	108.0	104.1	101.8	101.2	77.1	73.3	74.9	83.1	90.6	88.1
	鉱工業生産（前期比、%）*	3.0	0.7	-1.3	-1.0	-3.3	-16.0	-18.0	12.3	9.1	-	-
	うち製造業（前期比、%）*	3.2	1.0	-1.3	-0.9	-3.4	-17.3	-19.5	13.4	10.0	-	-
企業部門	製造業受注（前期比、%）*	7.0	3.4	-3.3	-0.5	-4.7	-24.3	-26.6	13.1	23.6	-	-
	うちコア（前期比、%）*	7.7	2.2	-4.3	-1.1	-3.4	-21.4	-23.1	13.4	14.6	-	-
	設備稼働率（%）	82.9	83.7	82.2	81.2	80.8	7~9月期は73.0%に上昇する見込み					
	製造業景況感指数（平均=-4.2）	5.7	6.7	-5.1	-9.2	-8.1	-27.2	-32.5	-27.5	-21.6	-16.2	-12.7
	サービス業景況感指数（平均=6.7）	14.7	15.2	10.7	9.8	6.6	-39.2	-38.6	-43.6	-35.5	-26.2	-17.2
	小売業景況感（平均=-6.6）	2.3	1.3	-0.4	-0.1	-3.0	-26.4	-30.1	-29.8	-19.4	-15.1	-10.5
	建設支出（前期比、%）*	2.8	1.7	1.9	-0.7	-3.0	-11.5	-18.2	29.4	4.0	-	-
	建設業景況感（平均=-12.7）	-3.0	7.0	6.4	4.9	3.4	-15.0	-16.1	-17.5	-11.3	-11.4	-11.8
	小売数量（前期比、%）*	2.4	1.6	2.3	0.3	-2.6	-5.2	-12.0	20.6	5.3	-1.3	-
	新車販売台数（年率、万台、季調済）	1,098	1,110	1,129	1,134	844	549	243	583	821	-	-
政府部門	消費者信頼感（平均=-11.1）	-5.4	-4.9	-7.1	-7.6	-8.8	-18.5	-22.0	-18.8	-14.7	-15.0	-14.7
	住宅価格（前年比、%）	4.3	4.7	4.2	4.5	5.0	-	-	-	-	-	-
	財政収支（対GDP比、%）	-1.0	-0.5	-0.6	-0.6	-1.0	-	-	-	-	-	-
	公的債務残高（対GDP比、%）	87.8	85.9	84.2	84.0	86.2	-	-	-	-	-	-
国際収支	経常収支（10億ユーロ）	347.1	361.0	327.2	78.7	49.3	45.9	13.9	11.3	20.7	-	-
	貿易収支（10億ユーロ）	241.6	194.6	224.3	70.7	53.5	32.4	2.4	8.8	21.2	-	-
	輸出（前年比、%）	7.2	4.2	2.8	2.3	-1.5	-23.3	-30.0	-29.9	-10.0	-	-
	輸入（前年比、%）	9.9	7.1	1.7	-1.9	-4.2	-21.5	-25.4	-26.8	-12.3	-	-
雇用賃金	失業率（%、季調済）	9.1	8.2	7.6	7.4	7.3	7.5	7.4	7.5	7.7	7.9	-
	失業者数（前期差、万人、季調済）	-156.7	-128.1	-71.5	-10.4	-30.5	61.4	10.7	16.8	33.9	34.4	-
	名目賃金・給与（前年比、%）	1.9	2.4	2.5	2.3	3.1	-	-	-	-	-	-
物価	消費者物価（前年比、%）	1.5	1.8	1.2	1.0	1.1	0.2	0.3	0.1	0.3	0.4	-0.2
	同コア（前年比、%）	1.0	1.0	1.1	1.2	1.1	0.9	0.9	0.9	0.8	1.2	0.4
	生産者物価（前年比、%）	3.0	3.3	0.6	-1.4	-1.8	-4.5	-4.7	-5.1	-3.8	-3.4	-
金融	M3（前年比、%）	4.5	3.9	5.6	5.6	6.2	9.0	8.3	9.3	9.3	9.7	-
	銀行貸出（前年比、%）	1.6	2.9	3.1	3.1	3.3	4.2	4.0	4.6	4.0	3.7	-
	政策金利（年利、%）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	EURIBOR3ヶ月物（年利、%）	-0.33	-0.32	-0.36	-0.39	-0.39	-0.33	-0.27	-0.31	-0.42	-0.46	-0.48
	ドイツ10年債金利（年利、%）	0.37	0.46	-0.21	-0.36	-0.41	-0.45	-0.44	-0.51	-0.40	-0.47	-0.48
	Eurostoxx50（期中値、91/12/31=1,000）	-	3,383	3,436	3,653	3,439	2,995	2,840	2,909	3,237	3,316	3,298
	ユーロ/円（期中値）	127.3	130.0	122.0	121.0	119.5	118.6	115.9	119.3	120.7	124.3	126.5
	ユーロ/ドル（期中値）	1.14	1.18	1.12	1.11	1.10	1.11	1.09	1.11	1.12	1.18	1.19

(注) \*のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

(出所) 欧州連合統計局(Eurostat)、欧州委員会ECFIN、欧州中央銀行(ECB)などの資料から作成。

## 【英国】～景気は緩慢ながらも回復している

- 英国景気は緩慢ながらも回復している。4～6月期の実質GDP（速報値）の前期比成長率は-20.4%と、コロナ禍が深刻な南欧諸国と比べても深刻な減少幅を記録した。月次の実質GDPは4月を底に2ヶ月連続で増加しており、景気そのものは回復基調にあると判断される。とはいっても最新8月の景況感指数は4ヶ月ぶりに低下しており、足元の景気の回復力はユーロ圏に比べると弱いものとみられる。
- 企業部門では、6月の鉱工業生産が前月比+9.4%と増加が続いた。また同月の実質輸出も同+1.5%と3ヶ月連続で増加したが、伸びは鈍化した。他方で同月のサービス業生産は同+7.8%と、増勢が前月（同+1.4%）から加速した。都市封鎖の部分的な解除で宿泊や飲食、流通の活動水準が回復したことが、サービス業生産の増加につながった模様である。さらに企業の景況感は、製造業が悪化に転じた一方、サービス業は改善が続いた。
- 家計部門では、7月の小売数量（除く石油）が前月比+2.0%と増勢は前月（同+13.5%）から大幅に鈍化した。水準自体はコロナ前のトレンドに回復したが、内訳を見ると好調をけん引しているのは在宅勤務の常態化の影響で好調な食品店であり、衣服など非食品店は売上の回復が遅れている。消費を取り巻く環境を確認すると、6月の失業率（3ヶ月後方移動平均）は3.9%と4ヶ月連続で同水準であり、雇用者数も前月差2.3万人減と2ヶ月連続でマイナス幅が縮小するなど、雇用の悪化は限定的である。他方で、同月の名目週間平均賃金は前年比-1.5%と減少幅の拡大が続いている、所得情勢の悪化が懸念される。



(出所) 英国統計局 (ONS)、欧州委員会ECFIN

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp

## ○英国の主要経済指標

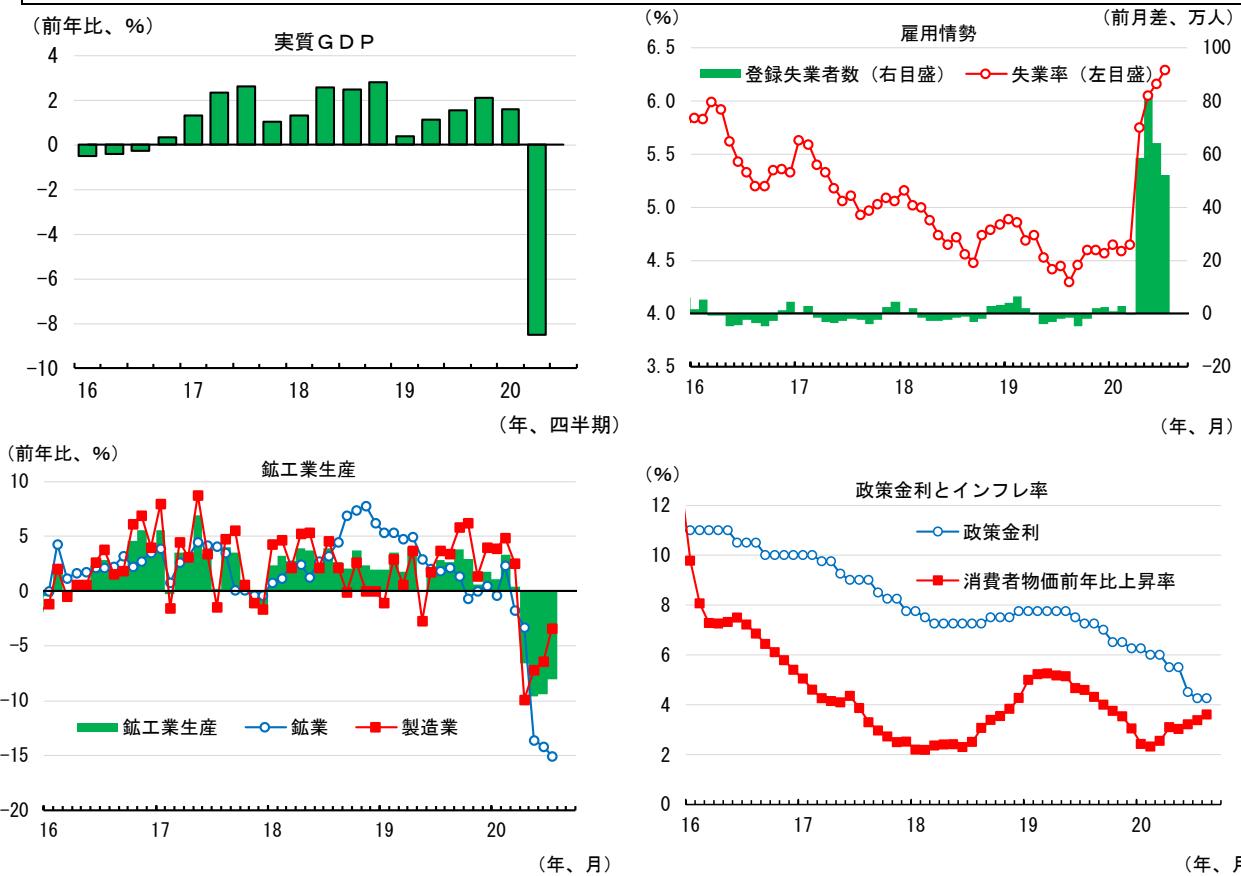
			2017	2018	2019	19/IV	20/ I	20/ II	20/ 4	20/ 5	20/ 6	20/ 7	20/ 8
景気	全体	実質GDP成長率（前期比、%）*	1.9	1.3	1.4	0.0	-2.2	-20.4	-	-	-	-	-
		個人消費（寄与度、%ポイント）	1.4	1.0	0.7	0.0	-1.8	-14.4	-	-	-	-	-
		総固定資本形成（寄与度、%ポイント）	0.3	0.0	0.1	-0.2	-0.2	-4.3	-	-	-	-	-
		景況感指数（長期平均=100）	108.4	106.8	93.9	88.6	92.7	63.1	62.4	61.7	65.2	75.5	75.1
景気	企業部門	鉱工業生産（前期比、%）*	0.6	-0.2	-0.5	-0.5	-1.5	-16.9	-20.4	6.2	9.4	-	-
		うち製造業（前期比、%）*	0.8	-0.3	-0.7	-1.0	-1.0	-20.2	-24.6	8.3	10.9	-	-
		サービス業生産（前期比、%）*	0.3	0.6	0.3	0.2	-2.4	-19.9	-18.4	1.4	7.8	-	-
		設備稼働率（%）	82.9	81.7	80.6	81.5	79.2	55.1	7~9月期は64.5%に上昇する見込み				
		設備投資（前期比、%）*	1.0	-0.8	0.4	-0.3	-0.3	-31.4	-	-	-	-	-
		製造業景況感指数（平均=-6.6）	10.6	5.8	-11.0	-18.5	-17.9	-42.2	-45.3	-42.4	-38.9	-22.1	-30.7
		サービス業景況感指数（平均=-0.5）	2.1	3.2	-13.0	-17.9	-6.2	-63.3	-58.8	-67.3	-63.7	-54.7	-45.0
		小売業景況感（平均=11）	-7.2	-6.8	-9.9	-8.8	-7.0	-22.5	-22.7	-23.7	-21.0	-16.6	-16.6
		建設支出（前期比、%）*	0.4	0.0	0.4	-1.0	-1.7	-35.0	-40.2	7.6	23.5	-	-
		建設業景況感（平均=-14.6）	-4.2	-1.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-
景気	家計部門	小売数量（前期比、%）*	0.3	0.8	0.4	-1.1	-1.6	-10.5	-18.1	12.3	14.0	3.6	-
		除く石油（前期比、%）*	0.2	0.8	0.3	-1.1	-0.7	-7.6	-15.2	10.6	13.4	2.0	-
		新車販売台数（前年比、%）	-7.1	-1.8	-2.2	-1.5	-18.2	-73.7	-97.3	-89.0	-34.9	-	-
		消費者信頼感指数（平均=-8.7）	-7.2	-6.8	-9.9	-8.8	-7.0	-22.5	-22.7	-23.7	-21.0	-16.6	-16.6
		住宅着工件数（年率、万戸、季調済）	16.4	16.7	15.0	13.7	-	-	-	-	-	-	-
政府部門	住門宅部	イギリス住宅着工件数（年率、万戸、季調済）	2.9	2.1	0.6	0.9	2.4	1.8	3.7	1.8	-0.1	1.5	-
		財政収支（10億ポンド）	6.6	2.3	10.9	-11.1	20.7	-109.5	-40.9	-42.3	-26.3	-22.7	-
		公的純債務残高（対GDP比、%）	82.4	81.7	89.5	85.1	88.0	99.1	92.2	96.5	99.1	100.5	-
国際収支		経常収支（10億ポンド）	-72.3	-82.9	-83.8	-9.2	-21.1	-	-	-	-	-	-
		貿易収支（10億ポンド）	-25.1	-29.8	-25.9	8.4	-1.2	18.8	5.8	7.7	5.3	-	-
		輸出（前年比、%）	11.1	4.4	6.4	10.6	-5.6	-15.7	-18.0	-18.9	-10.3	-	-
		輸入（前年比、%）	9.3	4.9	5.7	-0.8	-15.9	-30.1	-35.1	-35.7	-19.4	-	-
雇用賃金		失業率（%、季調済、3ヶ月平均）	4.4	4.1	3.8	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	-	-
		雇用者数（前期差、万人、3ヶ月平均）	30.9	44.4	33.6	18.0	21.1	-22.0	-15.3	-4.4	-2.3	-	-
		名目週間平均賃金（前年比、%）	2.3	2.9	3.4	2.9	2.3	-1.2	-1.0	-1.2	-1.5	-	-
物価		消費者物価（前年比、%）	2.7	2.5	1.8	1.4	1.7	0.6	0.8	0.5	0.6	1.0	-
		同コア（前年比、%）	2.4	2.1	1.7	1.6	1.6	1.4	1.4	1.2	1.4	1.8	-
		生産者投入物価（前年比、%）	11.2	7.3	0.6	-1.9	-0.6	-9.2	-10.6	-10.2	-6.7	-5.7	-
		生産者産出物価（前年比、%）	3.4	2.9	1.6	0.7	0.6	-0.9	-0.7	-1.2	-0.9	-0.9	-
金融		M3（前年比、%）	8.4	3.5	1.2	-0.3	4.1	9.7	8.6	9.9	10.7	11.0	-
		国内向け銀行貸出（前年比、%）	4.8	3.8	3.8	2.9	5.5	7.6	7.9	7.6	7.4	5.9	-
		政策金利（年利、%）	0.50	0.75	0.75	0.75	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
		LIBOR3ヶ月物（年利、%）	0.36	0.72	0.81	0.79	0.67	0.39	0.64	0.33	0.19	0.10	0.07
		10年債平均金利（年利、%）	1.25	1.47	0.90	0.69	0.55	0.26	0.32	0.23	0.24	0.18	0.25
		FT100指数（期中値、91/12/31=1,000）	7,378	7,357	7,278	7,324	6,871	5,977	5,729	5,956	6,245	6,167	6,074
		ポンド/円（期中値）	144.6	147.4	139.3	139.9	139.5	133.6	133.7	131.9	135.1	135.5	139.2
		ドル/ポンド（期中値）	1.29	1.34	1.28	1.29	1.28	1.24	1.24	1.23	1.25	1.27	1.31

(注) \*のついた前期比は年次データが前年比、四半期データが季調済前期比、月次データが季調済前月比を意味している。

(出所) 英国統計局(ONS)、欧州委員会ECFIN、イギリス銀行(BOE)などの資料から作成。

## 【ロシア】～景気は緩慢ながらも回復している

- ロシア景気は緩慢ながらも回復している。4～6月期の実質GDP（速報値）は前年比-8.5%と、世界金融危機の直後となる2009年7～9月期（同-8.6%）以来の下げ幅を記録した。新型コロナの感染拡大が経済活動を制約し、記録的なマイナス成長になった。とはいえ、月次の経済指標は前年比でのマイナス幅を徐々に縮小させており、ロシアでもまた生産や消費の水準は最悪期を脱していると判断される。
- 企業部門では、7月の製造業生産が前年比-3.4%とマイナス幅は着実に縮小している。製造業自体は徐々に復調している反面で、同月の鉱業生産は同-15.0%と減勢の拡大が続いている。鉱業の生産が減少している主な理由は、サウジアラビアなど石油輸出国機構（OPEC）諸国との間で締結した協調減産にある。実際に減産協定の締結以降は、原油・超軽質油及び天然ガスの生産量は前年比-15%程度の減産幅が定着している。
- 家計部門では、7月の小売売上高が前年比-2.6%と、マイナス幅の縮小が進んだ。順調に減勢を弱めた食品に加えて、非食品もマイナス幅を縮小させた。また同月の新車販売台数（14.2万台）は同+6.8%と、4ヶ月ぶりに前年水準を上回った。他方で消費を取り巻く環境を確認すると、7月の失業率は6.3%に上昇、また登録失業者数も前月比+52.4万人と雇用の悪化が続いている。一方で、8月の消費者物価は前年比+3.6%と低水準ながらもインフレが徐々に加速しており、政策金利の水準（4.25%）と接近している。



## ○ロシアの主要経済指標

			2017	2018	2019	19/IV	20/ I	20/ II	20/ 4	20/ 5	20/ 6	20/ 7	20/ 8
景気	全体	実質GDP (前年比、%)	1.8	2.5	1.3	2.1	1.6	-8.5	-	-	-	-	-
		個人消費 (寄与度、%ポイント)	3.7	3.3	2.5	1.3	1.9	-	-	-	-	-	-
		総固定資本形成 (寄与度、%ポイント)	2.5	1.3	2.2	0.8	0.3	-	-	-	-	-	-
	企業部門	鉱工業生産 (前年比、%)	2.3	2.9	2.3	1.8	1.6	-8.5	-6.6	-9.6	-9.4	-8.0	-
		鉱業 (前年比、%)	2.2	3.9	2.6	0.0	0.1	-10.3	-3.3	-13.6	-14.2	-15.0	-
		製造業 (前年比、%)	2.8	2.8	2.5	3.9	3.8	-7.8	-9.9	-7.2	-6.4	-3.4	-
		電気ガス水道 (前年比、%)	0.1	1.4	0.3	-0.9	-2.4	-3.7	-1.9	-4.2	-5.0	-2.8	-
		ウラル産原油価格 (ドル/バレル)	53.1	69.8	63.7	62.1	48.4	30.4	18.2	31.0	41.9	43.9	44.5
		鉱業信頼感指数 (ポイント)	-0.2	0.8	-0.3	-3.3	-3.0	-5.0	-5.0	-6.0	-4.0	-3.0	-2.0
		製造業信頼感指数 (ポイント)	-2.3	-3.4	-2.4	-4.7	-2.3	-7.3	-7.0	-9.0	-6.0	-5.0	-5.0
		電気ガス水道信頼感指数 (ポイント)	-1.7	-1.0	-3.0	2.0	-4.3	-9.3	-10.0	-10.0	-8.0	-4.0	-1.0
		建設支出 (前年比、%)	-0.2	6.7	0.3	0.6	1.1	-1.8	-2.3	-3.1	-0.1	-0.2	-
		ビル竣工件数 (前年比、%)	-23.5	21.1	46.7	10.0	2.1	-17.0	-	-	-	-	-
	家計部門	建設業景況感指数 (ポイント)	-17.0	-22.3	-20.0	-25.0	-15.0	-21.0	-	-	-	-	-
		小売売上高 (前年比、%)	1.2	2.8	1.6	2.1	4.4	-16.7	-23.2	-19.2	-7.7	-2.6	-
		新車販売台数 (万台)	159.6	180.1	176.0	48.8	38.3	22.5	3.9	6.3	12.3	14.2	-
		消費者信頼感指数 (ポイント)	-12.4	-11.7	-14.2	-12.8	-10.5	-30.0	-	-	-	-	-
		住宅価格 (前年比、%)	-3.6	2.5	7.2	6.6	7.1	8.1	-	-	-	-	-
政府部門	財政収支 (兆ルーブル)		-1.3	3.0	2.1	-1.9	0.6	-1.5	0.3	-0.6	-1.2	-0.4	-
	公的国内債務残高 (兆ルーブル)		8.7	9.2	10.2	10.2	10.3	11.2	10.6	10.8	11.2	11.4	-
国際收支	経常収支 (10億ドル)		127.8	300.8	384.3	65.3	53.6	-	-	-	-	-	-
	貿易収支 (10億ドル)		130.3	211.1	179.0	44.9	36.5	17.8	7.7	4.4	5.8	-	-
	輸出 (前年比、%)		25.9	26.4	-5.6	-8.7	-13.7	-31.4	-33.0	-35.3	-25.8	-	-
	輸入 (前年比、%)		25.5	6.2	2.1	9.4	0.6	-12.5	-19.8	-12.8	-4.8	-	-
	対外債務 (対輸出比率、倍)		1.5	1.0	1.2	1.2	1.1	1.3	-	-	-	-	-
賃金雇用情勢	失業率 (原系列、%)		5.2	4.8	4.6	4.6	4.6	6.0	5.8	6.1	6.2	6.3	-
	失業者数 (前期差、万人)		-11.9	-8.2	-0.2	2.6	3.5	206.1	58.4	83.3	64.4	52.4	-
	名目賃金 (前年比、%)		7.3	10.1	7.0	6.8	8.6	2.9	1.0	4.0	3.8	-	-
	実質賃金 (前年比、%)		3.5	7.0	2.7	4.5	6.0	-0.1	-2.0	1.0	0.6	-	-
物価	消費者物価 (前年比、%)		3.7	2.9	4.5	3.4	2.4	3.1	3.1	3.0	3.2	3.4	3.6
	同コア (前年比、%)		3.5	2.5	4.2	3.4	2.6	2.9	2.9	2.8	2.9	3.0	3.1
	生産者物価 (前年比、%)		7.7	12.3	2.2	-5.6	-1.9	-12.1	-11.4	-15.3	-9.7	-3.2	-
金融	M3 (前年比、%)		10.3	11.0	8.7	9.3	11.7	14.2	14.0	13.6	14.9	15.5	-
	銀行貸出 (前年比、%)		0.4	5.8	10.8	5.7	6.8	10.0	10.3	9.2	10.4	12.9	-
	政策金利 (期末値、%)		7.75	7.75	6.25	6.25	6.00	4.50	5.50	5.50	4.50	4.25	4.25
	3ヶ月物銀行間金利 (期中値、%)		8.2	6.8	6.8	5.9	5.4	4.7	5.2	4.8	4.1	4.0	4.0
	10年債流通利回り (期中値、%)		7.9	8.0	7.6	6.6	6.6	6.1	6.6	5.8	5.8	6.0	6.2
	RTS指数 (期中値、ポイント)		1,098.8	1,172.2	1,326.2	1,470.1	1,277.1	1,185.8	1,125.0	1,219.8	1,212.6	1,234.4	1,258.6
	100円/ルーブル (期中値)		52.0	56.8	59.3	58.6	61.0	67.1	69.3	67.6	64.3	66.8	69.6
	ドル/ルーブル (期中値)		58.3	62.7	64.7	63.7	66.5	72.2	74.8	72.5	69.2	71.3	73.8
	ユーロ/ルーブル (期中値)		65.9	74.0	72.4	70.5	73.3	79.4	81.2	79.0	77.9	81.6	87.3
	外貨準備高 (期末値、10億ドル)		432.7	468.5	554.4	554.4	563.5	568.9	566.0	566.1	568.9	591.8	-

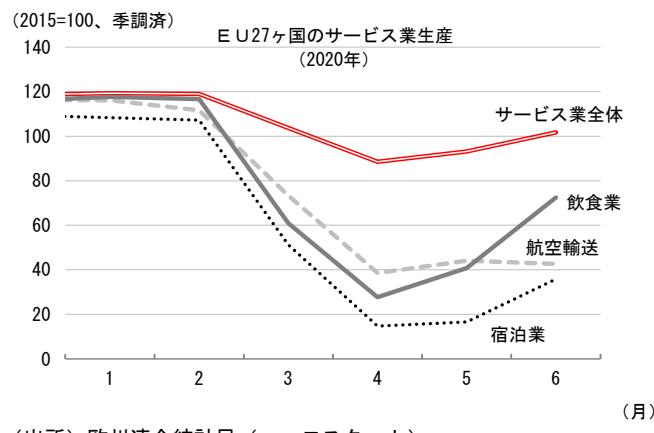
(出所) ロシア連邦統計局 (Rosstat)、ロシア連邦中央銀行などの資料から作成。

## II. コロナショックで不振を極めるツーリズムセクター

### (1) ツーリズムセクターの生産は75%減

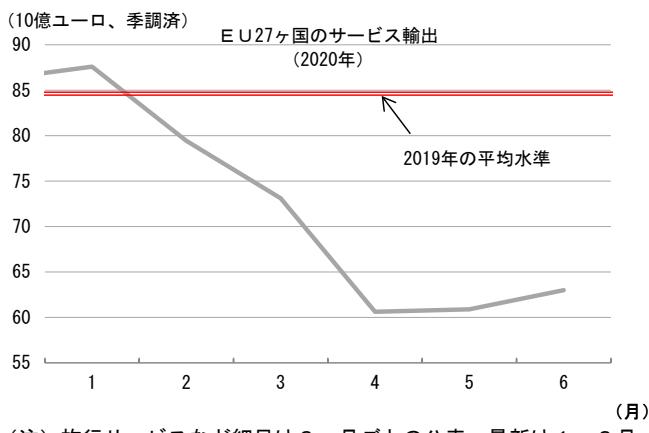
- ・ [欧州連合統計局（ユーロstatt）が9月4日に発表した資料](#)によると、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う経済への悪影響に伴い、欧州連合（EU）のサービス業生産は2月から6月の間に、最大で16.4%減少した。とりわけ、イタリアやスペインなど南欧諸国の経済成長をけん引するツーリズムセクターは同様に75%減と、業況の悪化は深刻であった。
- ・ 詳細を見ると、旅行代理店等は同様に最悪期で83.6%減、次いで航空輸送が73.8%、宿泊が66.4%、飲食が38.4%減となった。各産業の動き（図表1、ただしユーロstattはツーリズムセクター全体の指標の系列を公表していない）を足元まで確認すると、都市封鎖（ロックダウン）の解除を受けて飲食や宿泊の業況がわずかに持ち直している。
- ・ 他方で航空輸送は低位で横ばいとなっているが、このことはEUが海外からの渡航者の受入をまだ厳しく制限しているためである。日本人に対してもドイツやベルギーなどはまだ入国制限措置を実施しており、イタリアなど入国後の行動制限を課している。最多の観光客を送り込んでいた中国に対しても、ほぼ同様の扱いである。
- ・ こうした状況のため、EU外向けサービス輸出（うち旅行サービスの輸出は2割弱）は足元にかけて低位で横ばいとなっている。とりわけ、中国からのインバウンド観光需要に支えられていた南欧諸国の経済がコロナショックで深刻なダメージを受けていることが、こうした指標の動きからも容易に察せられる。

図表1. 不振を極めるツーリズムセクター



（出所）欧州連合統計局（ユーロstatt）

図表2. サービス輸出も低位横ばい



（注）旅行サービスなど細目は3ヶ月ごとの公表、最新は1～3月期まで

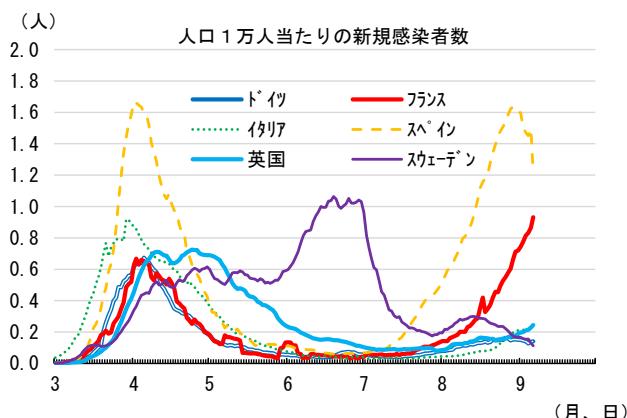
（出所）欧州中央銀行

### (2) 国内や域内のツーリズム需要を喚起へ

- ・ 欧州ではシェンゲン協定加盟国（EU27ヶ国中22ヶ国及び欧州自由貿易連合加盟4ヶ国計26ヶ国）間で国境を徐々に開放、バカンス需要をわずかでも喚起しようとしている。また観光需要を刺激するための取り組みも行われており、例えばドイツでは観光庁（DZT）が欧洲域内の観光客向けキャンペーン（Dreams Become Reality）を展開している。

- とはいっても多くの国で人々は自国にとどまっているのが現状とみられる。フランスやイタリア、スペインといった国々では、地中海沿岸で夏季の長期休暇を楽しむ自國の人々が多かつたとされている。新型コロナウイルスの感染拡大は夏季に第二波を迎えたが、その理由の一つが夏季休暇に伴う国内移動の増加にあったとされる（図表3）。
- 実際に欧州各国の首都や地中海沿岸の避暑地では、いわゆるクラスター（感染者集団）が発生した模様である。例えばフランスでは、首都パリと南部の大都市のマルセイユが高感染リスク地域に指定された。またクロアチアではアドリア海に面する景勝地で感染者が急増、英國やドイツがクロアチアへの渡航制限を勧告する事態となった。
- 他方で、各国の新規死亡者の数（図表4）は、春季に経験した感染拡大の第一波の際に比べるとかなり抑制されている。新規感染者数の大半が軽症の若者とされ、医療体制もひっ迫していない。感染の動向に留意しながらも、雇用吸収力が大きいツーリズム産業を少しでも動かすことに欧州各国は注力していると言えるだろう。

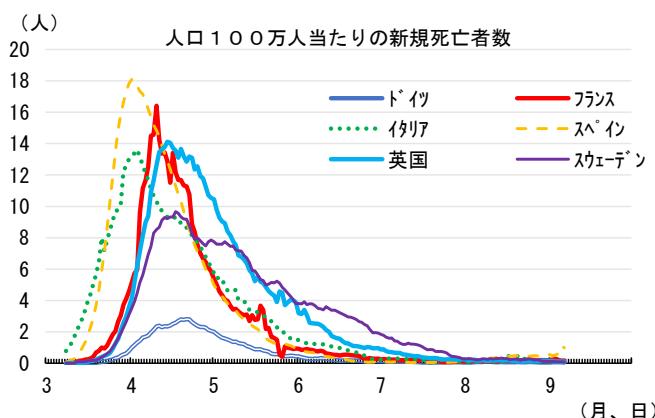
図表3. 夏季に欧州は感染拡大の第二波を記録



(注) 7日間移動平均

(出所) 世界保健機関（WHO）、ユーロstatt

図表4. 死亡者の増加は限定的



(注) 7日間移動平均

(出所) WHO、ユーロstatt

### （3）産業の衰退を食い止めるために必要な供給サイドへの支援

- 日本では国内の旅行需要を喚起するために「go to キャンペーン」が実施されている。各国がツーリズム産業を動かすことに重点を置いている理由は、コロナショックで業況が極端に悪化したツーリズム産業を放置してしまえば、将来的に同産業が不可逆的に衰退しかねないことに対する危機感があるからだろう。
- コロナショックで需要が激減したことにより、ツーリズム産業は典型的な「供給超過」の状況にある。需要は短期で変動するが、供給の調整には長期を要する。そのため、先行きツーリズム産業への需要が回復したとしても、いったん低下してしまった供給は直ぐには戻らない。そのためコロナ以前に比べると、サービスの価格が上昇することになる。

- ・ その価格の上昇がさらに需要を圧迫し、供給の衰退が進む。典型的な縮小均衡に、ツーリズム産業が陥ってしまう危険性がある。ただでさえ雇用吸収力が大きいツーリズム産業が干上がってしまえば、社会に与える悪影響は計り知れない。ツーリズム産業の痛みを少しでも緩和して産業の地盤沈下を防ぐことは政策的な重要課題である。
- ・ エールフランス=KLM（フランス／オランダ）やルフトハンザ航空（ドイツ）など、欧州各国がナショナルフラッグである航空会社に対して手厚い公的資金を行っている理由も同じである。ツーリズム産業をどう戦略的にサポートしていくか、ウィズないしはアフターコロナを見据えるうえで極めて重要な論点の1つと言えよう。

#### － ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。